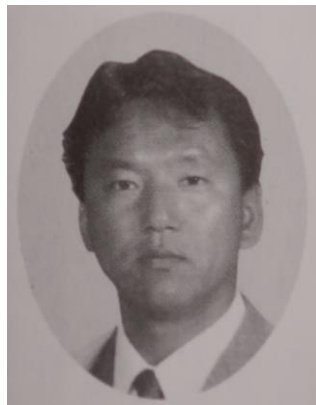


「 三 世 代 職 員 」 (※1)高理第 14 回卒 木 幡 修 三 (※2)

私の家系は、相馬高校にとっても縁があり、三世代相馬高校卒業は数多くあると思いますが、家族全員（母親も含め両親兄弟）が相馬高校卒業で、なおかつ、三世代職員となると数少ないのではないのでしょうか。

家系を遡ると、父方・木幡家では、祖父・正夫は相馬中学 1 期生で、家庭の事情により残念ながら中退。（卒業していれば初代卒業生 56 名の中に入れていたのですが）。父・芳郎は商業科第 2 回卒業（昭和 28 年 3 月）。兄・和行は普通科第 33 回卒業（昭和 56 年 3 月）、テニス部で活躍し県・東北で優勝しました。

私・修三は理数科第 14 回卒業（昭和 60 年 3 月）。弟・昭夫は普通科第 40 回卒業（昭和 63 年 3 月）と 3 世代で相馬高校にお世話になりました。また、母・政子も定時制普通科夜間部第 6 回卒業（昭和 33 年 3 月）と家族全員が相馬高校を卒業しました。

三世代職員としては、母方・西坂家では、祖父・西坂勝四郎は後の中村高等女学校で昭和 12 年から昭和 18 年までマッサージ師として講師を務めました。（中村高等女学校は、相馬高校「馬城会」第二部に自動的に入会となっています。また、昭和 12 年は、中村町立中村実践女子青年学校で、昭和 16 年から中村高等女子職業学校となり、昭和 21 年から中村高等女学校に校名が変更となりました。）

母・政子は、最後の 1 年間は、昼は事務職員として勤め、夜は夜間部で勉強をしました。その当時の授業は、他の女子高校よりもしっかりと勉強することができ、すべての科目をやり、物理・化学・生物すべて行い、実験等までしっかりとやっていました。そのことが後の看護学校や養護教諭になる手助けになったと言っていました。そして、私・修三は平成 19 年 4 月から数学教員として母校で教鞭を取るようになりました。

今回創立 110 周年を迎えるにあたり、父方祖父が相馬中学 1 期生であることや母方祖父は中村高等女学校で教鞭を取っていたことを前からは聞いていましたが、今回色々な資料を調べ両親などに話を聞いて、この長い年月の中で本当に関わってきていた事をしみじみと感じました。

私自身、平成元年に教員に採用され、行く行くは母校である相馬高校で教鞭を取りたいと考えていました。やっと母校で教えることができる喜びとやはり OB であることから地域の方々からの熱い思いを子供たちに伝え、高校生活を通して人間としても大きく成長させたいと考えています。

また、数学がもっともっと面白いことを教え、部活動でもテニスの楽しさや勝負の厳しさなどを教えながら頑張らせたいと考えています。

(※1) 創立 110 周年記念誌『紅の旗』(2009(平成 21)年 1 月発行)「思い出の記」〈ああ、我が青春の日々よ〉より

(※2) 昭和 60 (1985) 年卒、山上出身。